

平成30年度 第4回 北九州市公共事業評価に関する検討会議

日 時：平成31年1月30日（水）
9：30～11：00

場 所：北九州市役所本庁舎
5階 プレゼンルーム

1 洋上風力発電に係る基地港湾整備事業について

～事業課より資料6に基づき説明～

2 内部評価結果について

～事務局より資料8に基づき説明～

3 質疑応答について

（座 長）

ありがとうございます。

それでは委員の皆様から、ただいまの事業課及び事務局からの説明につきまして、ご意見ご質問等あればお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

（構成員）

今回の事業は、日本の風力発電がどうしても洋上に設置していかなければならない状況において、日本全体においてもSEP（自己昇降式作業台船）の備船料が非常に高いので進まないというのが大きな課題と考えています。おそらくここが西日本のマザー基地としてなっていくのではなかろうかという意味では非常に意義深い事業であると思っています。

特に、北九州市は環境都市であり持続可能な社会としてSDGsを進めていく中でメリットになると思います。東日本を含めて、相当な範囲で産業集積ができるものではないかと思うので意義深いものと考えています。

（構成員）

B/CのところのBの算定の時に、SEP（自己昇降式作業台船）が全国でもあまり数が少ないということですが、数が増えてきてもサイクル短縮などは関係ないのでしょうか。

（事業課）

陸上でタワーを立ち上げるか洋上で組み立てるかの違いであり、使用する船は同じであると仮定していますので、仮にSEP（自己昇降式作業台船）が大型化して一回に乗せる量が増えて、建設コストは減っていくものの使う船は一緒と考えています。

（構成員）

いずれにしてもWithとWithoutの関係は変わらないでいいのでしょうか。

(事業課)

そのとおりです。

(座長)

基本的な確認であるが工事期間の2年はヨーロッパの方でも標準的なものなのでしょうか。この業界は結構競争関係が激しいので、2年間は感覚として長いと思っています。先行者利益はありますが、あまりゆっくりやっていると他に取りられるという話もありますので、2年間というのが妥当な期間として捉えるべきなのかどうかと思いますが。

(事業課)

ヨーロッパの方での標準的工事期間は分からないが、北九州市の強みは、(港湾機能として)ほぼ形はできていまして、ゼロから作るより圧倒的に早いと考えています。それと、工事期間を延べで2年程度見ていますが、洋上新法ができて、これから色々な事案が出てくると思いますが、先行するひびきウインドエナジーでさえアセスの面などをやっていても平成34年度からになりますので、新法が発行してどういった手続きがなされるか決まっていくと思いますが、それが一気に短くなるのは難しいと思っています。

だいたい、平成34年度頃から各ウインドファームが動き出すのかなと思っています。そうすると、この2年間となります。工期の2年間に縮めることができればいいが、今のところこれでいけるとしています。

ただし、建設に入ってしまうと営業面はかけられますので、既成事実はありますので、各ウインドファームについて既に情報収集は行っていますが、さらに具体的にやっているとします。

(座長)

急ぐことで基礎工事が疎かになれば、これはまた問題になるのでしっかりやっていって欲しいと思います。

前倒しが可能であれば、期間を短くしてできるだけ早く操業にこぎつけるようにしていった方がよろしいかと思っています。周辺の自治体でも長崎とか佐賀でも取り組みが始まっていると思いますので、先手を打つという意味ではできるだけ工期は短い方がいいと思います。ご検討いただければと思います。

(座長)

ついでの話ですが佐賀の唐津や長崎とかも、この業界でかなり整備を進めていこうとしています。これらの地域との差別化といいますか利点はどこにありますか。

(事業課)

SEP(自己昇降式作業台船)の行動半径が500~700kmとヨーロッパの方で言われているので、そのエリアの中に入ってくるのと、一番大きいのは港のハードの部分で、それだけ広いヤードがあるかということがあります。風車自体は海外から部材含めて持ってきますので、まとまった量を持ってくるのがコスト削減につながりますので、広い場所が必要になります。それに加えて耐荷重性が強い所を持たなければならないとなると、通常の港が直ぐにそれをするかということは難しいと思います。今の既存施設を使うとしても、そこは誰かが既に使っているところで、それを全て使えるかが難しい問題となります。今回、北九州市がやろうとしていることは、完全に洋上風力に特化した形で、専用的に基地とし

てやるということですので機能面では大きな差が見られます。

(構成員)

これだけの事業が今から始まろうとしている時に、北九州市民がどれだけ分かっている方がいるかが一番心配なところですよ。

これだけお金を掛けて、これだけの日本で最初の事業をやるということ、また、これだけのサイエンス的な科学的な事をやるということ、北九州市民に浸透させて欲しいというのが一番です。

工期を早くということもありますが、それ以外に、(洋上風力発電が) 1基ずつ出来た順番に電気を発電して売っていくことができればと思います。

日本で一番というのが嬉しいことですので、工事期間中でも見学できるようなことも考えて欲しいと思います。市民へのPRが一番大事だと思いますので、それによって理解していただけたらと思います。

(事業課)

風力発電関連産業の総合拠点化はこれまでも話させて頂いています。

(構成員)

新聞紙上では出ているが、一般市民はあまり知らない人が多いのではないかと思います。あの場所にしょっちゅういけるように出来ないかということで、一般市民が行くような仕掛けが必要ではないでしょうか。この地に科学館のように学習ができ、スペースワールドのような子供達が遊べるアドベンチャー的なものができるのかも一つ加えてみてはどうでしょうか。

(事業課)

これまでの数年間は、ご指摘の通り関連産業の関係者を対象としたものになりがちでした。新聞紙上でも目に触れるようになってきて、平成31年度以降は、視線を市民の方に向けて、一般の方々に現場を見て頂けるような機会を多く作っていきたいと思っています。

風力発電の関係が日本でスタートして10年弱経過するのですが、日本風力発電協会という全体を統括しているような団体がありまして、節目の時にどこかで大きな市民を巻き込んだイベントをやりたいという意向がありまして、できれば初めての国レベルでの振興などを北九州市でやれるように調整をさせて頂いているところであります。

(構成員)

日本初ですから、ここに総理大臣に視察に来ていただくとかがあればいいなと思います。

(構成員)

これは港の事業ですので、洋上風力発電を建設するのは民間事業者になると思いますが、低周波とかバードストライクなどが風力発電で問題視されたことがあったと思いますが、これは海の上ですので、そう大きな問題ではないと思います。ただし、かなりの数を建てるとなると、環境アセスメントはそういう事をチェックするのでしょうか。

小分けになり、1プロジェクト数基分ごとのアセスになるのか、それともこのエリア全体に計画されている何十何基が建設されるというアセスになるのでしょうか。

(事業課)

事業ごとにアセスを行いますので、今回は22万キロワットが対象になり、事業者は一家社です。

(構成員)

トータルで予定されている海域全部が入った時の総合的なインパクトが評価されるということでしょうか。

(事業課)

今回、港湾区域という限定的エリアで事業を推進することとなっており、採択された事業者が予定している発電総量が22万キロワットとなっており、その中では他者が割り込む隙間がないくらい、いっぱいとなっております。

(構成員)

44基分のアセスを行うということですね。その外側は今のところ予定としてはないということですか。

(事業課)

今度は、一般海域となりますので、4月1日に法が施行された後に、その都度取り組んでいかなければいけないこととなります。

バードストライクについては、事業者が日本野鳥の会とか専門の先生などにご意見いただきながらアセスを進めています。事前の調査で、渡り鳥がどのルートを通るか、どの高度でどの時間帯を通るかなどを調べる事を行っており、密に取り組みを進めてもらっています。

(構成員)

1基ずつではなく、44基がまとまってしまうことによる低周波の効果は、相互干渉する可能性もあり、小数基のアセスとは異なる可能性もあると思われるので、環境アセスメントをどうされるのかが気になった次第です。

(事業課)

低周波についても、事業を行うにあたって地元説明等も行っています。不安に思われる方もいらっしゃるので、市の事務者サイドでも環境アセスに関する説明会を専門の方を呼んで行っていますし、リーフレットを使って周知をしているとことです。

通常の調査地点、現況を測定したりする点も、通常の箇所より増やしたりとかして対応しているところではあります。

(座長)

発電された電力については、将来は、九州電力が買い取りということでしょうか。一部を直にこのエリアに供給することはないのでしょうか。

(事業課)

将来の課題です。

(座 長)

できれば、北九州市全域に優先的に供給すると電力コストも下がって市民の理解も得やすいと思いますが。ひいては、それを工場誘致の立地要因として活用するとか。

九州電力も太陽光発電その他で電力量が余っていることが発生していることがあると思いますが、エリアで活用できるような電力というような、別会社になるとと思いますが地域電力を将来的には検討して頂いて、生活と産業立地に貢献して頂ければと思います。先の話になります、そこまで出来れば市民も頑張れという話になるとと思いますが。

(座 長)

それでは、皆様、この事業の意義を理解されて頂いていると思いますので、大きな反対意見はないと思いますが、手続き上の従来どおりの確認をしていきたいと思います。

ただいま各構成員の皆様から様々なご意見をいただきました。ここで一つ、委員の皆様を確認しておきたいのですが、基本的に当該事業をこの計画で進めていくことに対して、ご異議、ご意見などありませんでしょうか。

(一 同)

異議なし

(座 長)

ありがとうございました。それでは、当該事業については、この計画どおり進めていくことを前提とした上で、検討会議としての意見を整理したいと思います。

全体的な意見としましては、当事業が本市の風力に関わる産業集積を促進し、内容を高度化することに伴いマザー基地になって行く点を鑑みて非常に意義深い事業であるということが第1点かと思います。

2点目としましては、この事業を北九州市民にきちんとPRをして頂き、理解を進めながら当事業を推進して頂きたいということです。

3点目としましては、1基とは違って、完成形態の段階では違った環境に対する影響が出る可能性がありますので、その点でのアセスメントをしっかりして頂きたいという意見でございます。

4点目ですが、工事期間と事業の立ち上げにつきましては、周辺のアジア各国で先行している国も既にありますし、ヨーロッパでもかなり技術力も上がっているという点を考えるとあまりゆっくり出来ないのが業界の状況ではないかと思います。工期や工事方法につきまして、各国の状況を今後とも調査して頂き、工期等につきましては、調整・工夫をして頂き、前倒しや短縮ができるように努力をお願いしたいと思います。

といったご意見を、「公共事業評価に関する検討会議の意見」としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(一 同)

異議なし

(座 長)

ありがとうございました。

なお、具体的な記載内容については、座長である私がお預かりし、事務局と調整させていただきますがいかがでしょうか。

(一 同)

異議なし

(座 長)

本日の会議資料及び議事録については、後日、市のホームページに掲載することとします。議事録については、私が事務局と調整させていただきます。

それでは、今後の予定について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

ただいま、構成員の皆様のご了承をいただいたとおり、「洋上風力発電に係る基地港湾整備事業」につきましては、現計画のとおり進めさせていただきます。

今後の予定としましては、今回の検討会議の意見を踏まえまして、市が「対応方針(案)」を決定し、市民意見の募集いわゆるパブリックコメントの手続きに入らせていただきたいと思います。以上です。

(座 長)

ありがとうございました。

それでは、これで本日の検討会議を終了いたします。

皆様、大変お疲れ様でした。